



# Play'n

ようこそ楽器の入り口へ。楽器を知ってもっと楽しもう。

## IKEBE GUITAR MANUAL

"Play'n" is produced by **Ikebe** MUSIC

# Play'n

## IKEBE GUITAR MANUAL

「知ることで得られる楽しみがあります。  
この本は「知る楽しみ」も伝えたい  
「IKEBE MUSIC」の、ギターマニュアルです。

page 03	安全上のご注意
page 04 - 05	エレキギター&ベースの種類
page 06	各部の名称
page 07	メンテナンス
page 08 - 10	弦の張り替え
page 11 - 13	チューニングと接続
page 14 - 15	音について
page 16	エフェクターについて
page 17 - 19	調整
page 20	故障かなと思ったら
page 21	リペア&カスタマイズ工房 WSR

当冊子で使用されている下記の他社ブランド名および製品名は各社の商標であり、該当する項目を説明する目的のみ使用されています。

Fender® (Stratocaster, Telecaster, Mustang, Jazzmaster, Jaguar, Precision Bass, Jazz Bass, Synchronized Tremolo, Floating Tremolo), Gibson® (Les Paul, SG, Flying V, ES-335, ES-175, P-90), Epiphone® (Casino), IBANEZ®, SCHecter®, GRETSCHE®, Marshall®, Roland® (JC), BOSS® (OD-3, CH-1, DD-3, GT-10), Ernie Ball®, D'Addario®, Floyd Rose®, EMG®, BIGSBY®, Wilkinson®, Kahler®, JIM DUNLOP® (Cry baby), PICKBOY®, FERNANDES®, Digitech® (Whammy), 他 - 概不同  
なお、当冊子内で使用しております、写真、画像、コンテンツ等は株式会社池部楽器店の所有物であり、一切の無断・不正使用を固くお断りいたします。  
Copyright (C) IKEBE GAKKI Co., Ltd. All Rights Reserved.

こちらに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載しています。必ずよくお読みの上、正しくお使い下さい。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

### ストラップは 確実に固定する。

楽器がストラップから外れて落下する恐れがあり故障や、ケガの原因になります。ストラップピンを使用するのも効果的です。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。

### 楽器に乗ったり圧力を加えるなど 乱暴な取り扱いはしない。

楽器が変形したり、壊れてしまう恐れがあります。故障や、ケガの原因にもなります。



### 楽器を分解、 改造しない。

故障や感電、ショートの原因となります。不具合が生じましたら、お買い上げの楽器店へお電話を。



### 早朝や夜間などに 大音量で演奏しない。

近隣にお住まいの方たちの迷惑になる恐れがあります。トラブルなどの原因になる場合もあります。



### ケーブルを抜く場合は 必ずプラグ部を持つ。

コード部分を持って抜くとコードが破損し火災や感電、ショートの原因となる場合があります。



### 濡れた手で プラグに触らない。

感電の原因となる場合があります。しっかりと水気を拭いてから触ってあげましょう。



### 楽器を下記のような 場所では使用しない。

直射日光の当たる場所、極端に温度が高いまたは低い場所、湿度が高い場所、埃の多い場所、振動が多い場所 etc...



### 弦の交換や調整の時は 顔を近づけすぎない。

不意に弦が切れた場合などに目を傷ついたり思わぬケガの原因となる場合があります。



### 弦交換後は不要な部分を短く 切り揃え、取り扱いに注意する。

弦の先端は鋭利なため、ケガの原因となる場合や衣類を傷つける場合があります。



### シンナーやベンジンで 楽器を拭かない。

メンテナンスの際は専用クリーナーを使用するか専用クロスで拭いて下さい。



### 楽器ケースを 落としたり乱暴な取り扱いをしない。

楽器が入ったケースは重量があります。突起物や角などでも思わぬケガをする場合があります。



### コード類は 絡まないように接続する。

からまった状態で接続しているとコードが破損し、火災や感電、ショートの原因となる場合があります。



### 本機の内部に 異物が入らないようにする。

水や針、ヘアピン等の異物が内部に入ってしまうと故障やショートの原因になります。



### 火気の近くや 高い場所に保管しない。

火災の原因となったり地震の際に落下してケガの原因になる場合があります。



### 電池は<+><->を間違えないよう セットし長時間使用しない時は外す。

思わぬ故障や発熱、液もれ、破裂の原因にもなります。



### 電池は 違う種類や新旧を混ぜない。

思わぬ故障の原因になります。電池を交換する際は、同じ種類の新しい電池を使って下さい。



### 電池は 火中に捨てない。

発熱、破裂、発火する恐れがあります。一般のゴミとは分けて市区町村の定める方法で捨てて下さい。



### コード類を接続する時は 各機器の電源を切ってから行なう。

電源を入れたまま接続すると接続した機器の故障の原因になる場合があります。



## ストラトキャスター

STRATOCASTER

1954年、フェンダー社が多数のギタリストの意見を元に設計し誕生。その後多くのメーカーに影響を与え続ける、まさしくエレキギターの代表的モデルです。人間工学に基づいたデザインで、お腹や肘など体の当たる部分があぐらされており(コンター加工)ストレス無く演奏できるのが特徴。またトレモロアームがついており、ダイナミックな音程変化を起こすことができます。3つのピックアップで幅広いサウンドを出すことができ、ポップスからロック、ブルース、メタルまで幅広いジャンルで使用されます。数多くのメーカーから、ピックアップ構成やブリッジの仕様などが異なる様々なストラトキャスター・タイプのギターが発売されており、1万円ぐらいの低価格のものから、熟練職人による高価なモデルまで数多くラインナップされています。



## レスポール

LES PAUL

エレキギターの王様と言っても過言ではない、ストラトキャスターと並ぶエレキギターの代表的モデル。1952年にギブソン社が発売を開始し、現在一般的になっているレスポールの仕様は1958年に完成しました。ヴァイオリンのようなアーチ状のトップを持つボディはマホガニーとメイプルと言う異なる特徴を持つ複数の木材を重ねて作られ、そこに接着されたネックは角度を付けられたヘッド部分を持ちます。パワーがありノイズが少ないハムバッキング・ピックアップの特徴とあいまって、太く豊かなサウンドと伸びやかなサスティーンを放ちます。特に音を歪ませて使用する音楽に好んで使われ、こちらも数多くのメーカーから同仕様のモデルが発売されていますが、ギブソン直系のエピフオンには安価なモデルも数多くラインナップされています。



## テレキャスター

TELECASTER

1949年、フェンダー社により世界初の量産モデル(当時の名称はブロードキャスター)として誕生した、エレキギターの元祖的モデルです。シンプルなデザインとサウンドが愛され、幅広い愛用者がいます。開発当初ユーザーとして想定されたのはカントリー・ミュージックでしたが、ブルース、ロック、パンクでも幅広く愛用され、ヴォーカリストの使用も大変多いです。そのシンプルでソリッドな構造から硬質でハッキリした音色を持ち、同じシングルコイルでもストラトとは異なる太くてパワフルなリア・ピックアップ・サウンドと、対照的に繊細でマイルドなフロント・ピックアップのサウンドが特徴です。フロントにハムバッキング・ピックアップを搭載したテレキャスター・カスタムを始め、数多くのヴァリエーションモデルがあります。



## SG

SG

1961年、ブレイク・アヴィリティを高めたレスポールの後継機種としてギブソン社より登場しました。名称のSG(エスジ)はソリッド・ギター の略。側面外周を斜めに削り、レスポールに比べ厚さが薄くなった分非常に軽く、ネックのほぼ全てが飛び出したダブルカッターウェイでハイポジションも弾きやすくなっております。その構造からレスポールよりもすっきりとした低域域を持ったクリアなサウンドで、独特のミッドレンジを持つ歪みがバンドアンサンブルに映えるため、主にロック系ギタリストに愛用されています。





## ムスタング

MUSTANG

1964年に誕生したフェンダー社のスチューデントモデルです。スチューデントモデルとはいえ、本格的なトレモロユニットや、2ピックアップを備え、ジャガー同様にショート・スケールのネックを持ち、多くのミュージシャン達にも愛用されているギターです。元々は欧米のティーンエイジャーの使用を想定して設計されており、ネックだけでなく全体的にコンパクトな作りになっているので小柄な方や女性でも扱いやすいモデルです。



## ジャズマスター

JAZZMASTER

当時レスポールの対抗機種として、フェンダー社が1958年から発売したストラトキスターの上位機種。柔らかな掛かるフローティングトレモロやプリセットスイッチ、平たい大型のシングルコイル・ピックアップを持ち、太くメロウなサウンドが特徴です。1960年代にベンチャーズ等のサーフィンホットロッド系音楽で一世を風靡。1970年代以降はニューウェーブ、ガレージロック、1990年代以降はグランジやオルタナ系ギタリストにも愛用されています。



## セミ・アコースティック・ギター

SEMI ACOUSTIC GUITAR

ほとんどのセミアコには、fホールと呼ばれる穴が開いているのが特徴で、薄めのボディの中央には木材が通り、左右には空洞のある構造を持っています。中央にソリッド構造があるため、ある程度ハウリングにも強く、ソリッドギター並みのサスティンと音の立ち上がり、そしてアコースティック構造による空気感のあるマイルドな部分を併せ持っています。かつてはジャズやブルース、フュージョンなどが主流でしたが、今日ではロックでも幅広く使用されています。



## プレジジョンベース

PRECISION BASS

1951年、アメリカのフェンダー社で最初に作られたエレクトリックベースが、プレジジョンベースです。この楽器が誕生するまでは、フレットのない巨大なウッドベースこそが「ベース」であり、このフレットの付いたベースの登場により誰でも正確な音程を取ることが可能になったことから、「プレジジョン（正確）」と名付けられました。シンプルな作りと固太く重いサウンドで、ロックやR&B、パンクなどにも使用されます。



## フライングV

FLYING V

1958年にギブソン社が発表した、当時の人々の度肝を抜いた変形ギターの一つ。その名の通り「V」を逆にしたようなシンプルかつ攻撃的なシルエットは、まさにロックを体現したかのようなエレキギターの象徴のひとつです。他のギターのように座って太ももの上に掛けて弾いたり、胡坐をかいて弾くことはほぼ不可能。その分、逆に自宅でもストラップを付けて立てて弾くことが多くなるので、むしろ上達に繋がるかも…？



## ジャガー

JAGUAR

1962年に、様々な機能を搭載したフェンダー社の最高級モデルとして登場。ストラトキスターやレスポールよりも短いショート・スケールのネックを採用しています。ヨーク板の付いた専用のピックアップを持ち、ストラトキスター、テレキスター以上にエッジの立った鋭く歯切れの良いサウンドが特徴です。1990年代以降はグランジ / オルタナ系ギタリストに使用され、「KCJ」の愛用でその地位は不動のものとなりました。



## フル・アコースティック・ギター

FULL ACOUSTIC GUITAR

いわゆるアコースティックギターと同様、ボディ内部が空洞になっており、一般的にはアコースティックギター並みの厚さもあるボディを持っています。ジャズでよく使用され、柔かく甘く厚みのある音の特徴です。アンプを通してでもそれなりに大きな音が出せますが、アンプを通しての高音の演奏ではハウリングが起き易いです。なお、エレクトリックのカジノは外見的にはセミアコに見えますが、センターブロックが無いためフルアコに分類されます。

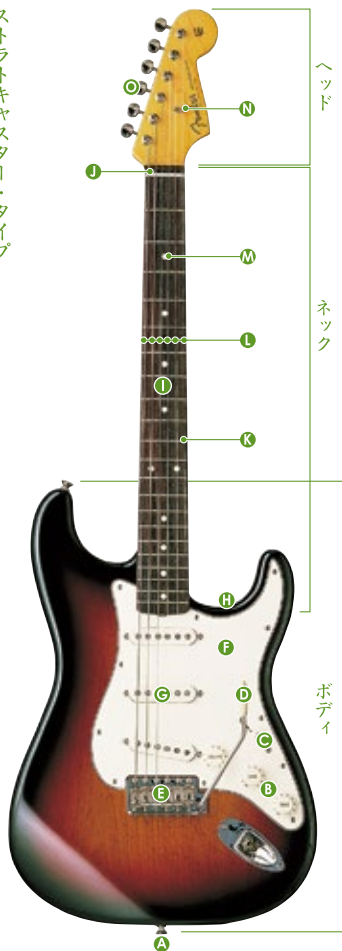


## ジャズベース

JAZZ BASS

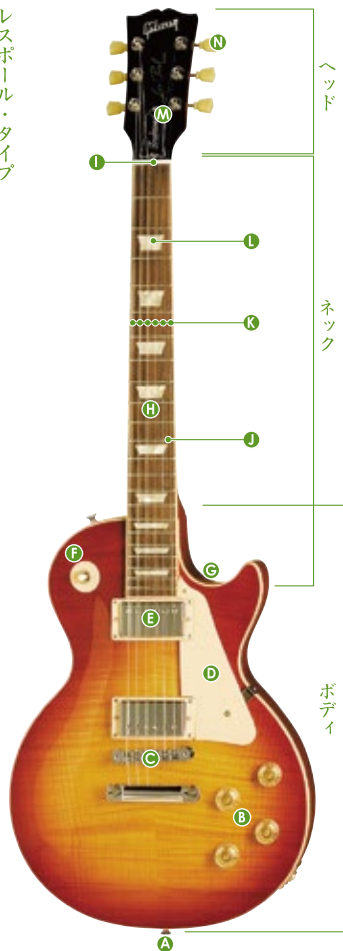
プレジジョンベースをさらに発展させ、1960年にフェンダー社から発売されました。ミックスバランスを調整できる2つのピックアップを持ち、クリアで芯のあるサウンドから甘いジャズサウンドまで音作りできるオールマイティなキャラクターで、幅広い音楽にマッチします。それほど大柄ではない体格の日本人にはやや大きいボディサイズに思えるかも知れませんが、このボディが生み出す低音ともどもエレキベースの定番として外せないモデルです。

ストラトキャスター・タイプ



- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| ● A エンドピン (ストラップピン)    | ● I 指板              |
| ● B コントロールノブ (P.13 参照) | ● J ナット             |
| ● C ピックアップ・セレクター       | ● K フレット            |
| ● D アーム (トレモロ・アーム)     | ● L 弦 (細い方から 1弦→6弦) |
| ● E ブリッジ               | ● M ポジションマーク (インレイ) |
| ● F ピックガード             | ● N スtringsガイド      |
| ● G ピックアップ (P.13 参照)   | ● O ベグ              |
| ● H カッタウェイ             |                     |

レスポール・タイプ



- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| ● A エンドピン (ストラップピン)    | ● I ナット             |
| ● B コントロールノブ (P.13 参照) | ● J フレット            |
| ● C ブリッジ               | ● K 弦 (細い方から 1弦→6弦) |
| ● D ピックガード             | ● L ポジションマーク (インレイ) |
| ● E ピックアップ (P.13 参照)   | ● M トラスロッドカバー       |
| ● F ピックアップ・セレクター       | ● N ベグ (マシンヘッド、糸巻き) |
| ● G カッタウェイ             |                     |
| ● H 指板                 |                     |

## 楽器のお手入れ

## クロスを用意する。(ボディ用と指板用の2枚)

楽器の塗装はデリケートです。適当な布で拭いて楽器に傷がつかないように、ギター磨き専用のクロスをまずは一枚用意してください。特に弦を磨かないでいると、すぐに錆びて交換しなければなりません。ギターを弾いたら、片付ける前に必ずクロスでギターを拭く習慣をつけましょう。



## 汗などの汚れを拭き取る。

クロスで汚れを拭き取ってから、ギターポリッシュを数滴染みこませてギター全体を拭きます。凸凹にたまる汚れ、手垢、老化したワックス等をきれいに取り除きます。なおデリケートなラッカー塗装等は、ポリッシュの種類によっては変質する場合があります。ポリッシュの取扱説明書を良くお読みになり、目立たない場所で試してから使用しましょう。

## フィンガーボードは汚れが溜まりやすい。

汗が滲み込んだり、手垢がついて汚れていますので、しっかりお手入れを行なって下さい。特にローズ、エボニー指板など塗装していないものは放っておくとカビが生えたり、ヒビ割れが起きる場合があります。オレンジオイルなど指板専用のオイルを付け、しばらくすると汚れが浮き上がってきますので、最終的に乾拭きで余計な油分を完全に拭き取ってください。またフレットの下端は特に汚れがたまりやすいので時々爪楊枝などで丁寧に掃除してください(指板を傷つけないようにご注意ください)。また、指板潤滑剤やオイルの付け過ぎも指板が痛みますので、ほどほどにしましょう。

## 金属パーツにサビは禁物。

特にブリッジやペグなど手の当たる部分は錆びやすいので、汗や手垢などの汚れをクロスできれいに拭き取ってください。ピックガードのネジなども錆びると最悪の場合、取り外せなくなります。また、各部のネジの緩みはトラブルの原因となり、特にストラップピンは緩んだままで使用すると大変危険です。こまめに点検を行ない、緩んでいるネジは締め直して下さい。



## 楽器の保管について

## クロスを用意する。(ボディ用と指板用の2枚)

「人間がいて心地よい環境は、楽器も心地よい」とお考え下さい。あなたがそこに一時も居たくないような、高温の車内や直射日光の当たる場所、ジメジメした場所、エアコン直撃の乾燥や急激な温度変化などは禁物です。長期間の保存でなければギターハンガーやギタースタンドに楽器を出しておくのが、練習にも手を取りやすく上達には一石二鳥です。また、スタンドのギターに接する面は滑り止めにゴムなどが付けられていることが多いのですが、ラッカー塗装などデリケートな塗装は変質する場合があります。その場合は「スタンドブラ」や柔らかい布などで、楽器に接するゴム部分をカバーして下さい。なおそのようにした場合、ギターがすべりやすくなることもありますのでご注意ください。また、週に2~3回弾くのであればエレキギターの場合は弦を緩める必要はありません。いつでも弾ける状態にして、いっぱい弾いてあげてください。

※アコースティックギターやベースは、もっと強い張力が掛かっていますので弾き終わった方や緩めた方が良いでしょう。

## いつでも持っておきたいアイテム

練習やライブなどで突然トラブルが発生することがあります。応急処置のために、以下の道具を常にギターケースに入れておくことをおすすめします。

 <p>六角レンチ (ネック調整、ロックナット、ブリッジ用)</p>	 <p>各サイズドライバー (+、-)</p>
 <p>パイプレンチ (ネック調整がヘッド側にあるタイプ)</p>	 <p>ギター専用ニツパー (専用のものでない刃こぼれしてしまします)</p>
 <p>接点復活剤 (突然の接触不良などにシューター吹き)</p>	 <p>ストリングワインダー (弦が切れても素早く交換できます)</p>
 <p>予備の弦 (現在張っている弦と同じ種類のもの)</p>	 <p>予備のシールド (必要な本数プラス1本が基本です)</p>

## 弦を張り替えよう

弦が錆びたり古くなると、音に響きがなくなり、チューニングも合わなくなってきます。そうになったら交換しましょう。もちろん切れた場合も弦交換は必要になります。ギターやベースを弾くには欠かせないことなので、しっかりと覚えましょう。

最初に  
用意するもの。

- 交換用の弦
- ギター専用ニッパー



01



古い弦を緩めてからニッパーで切り、ペグとブリッジから古い弦を外します。

02



新しい弦の太さが間違っていないか確認し、ブリッジに弦を固定します。

ブリッジ部分の弦の固定方法は、ブリッジのタイプにより異なります。

a



## シンクロナイズドトレモロ

ボディの裏側から弦を通します。

b



## テールピースタイプ

テールピースの後ろから弦を通します。

c



## ダブルロック式トレモロ

ボールエンドをカットした弦をインサートブロックで固定します。

d



## ベースブリッジ

ブリッジの後ろの穴から弦を通します。

03



新しい弦をペグの穴に通し、ペグ1.5~2個分あたり先で軽く折り曲げておきます。この時、なるべく弦がねじれないようにするのがコツです。弦がねじれているとピビリやチューニングが安定しないなどの原因となります。

04



折り曲げたところまで弦を戻して、内側から外側へ、軽く引っ張りながら弦同士が重ならないように、下へ下へと巻いていきます。

05



ある程度巻き終わったら、弦の余った部分をニッパーで切り落とします。

06



【03】～【05】の作業を、全弦分繰り返します。



07



全部の弦が張り替え終わったら、チューニングをしましょう。

08



緩みが無くなるように、弦を何度か引っ張りながら、安定するまでチューニングを繰り返します。

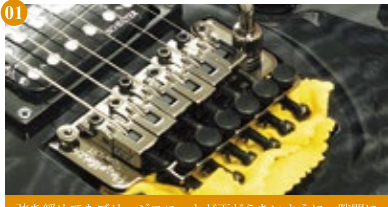
## ロック式トレモロの弦の張り替え方

最初に  
用意するもの。

- 交換用の弦
- ギター専用ニッパー
- 六角レンチ
- ブリッジを固定する為の布



01



弦を緩めてもブリッジユニットが下がらないように、隙間にクロスや布などを挟みます。

02



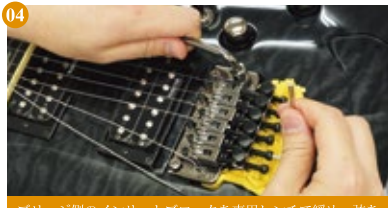
ヘッド側のロックナットを緩めて外します。どの弦に使われたものかわかるようにしましょう。部品を無くさないように！

03



ペグを回してすべての弦を緩めます。弦に張りがある状態でブリッジのロックを外すと弦が跳ねたりして大変危険です。

04



ブリッジ側のインサートブロックを専用レンチで緩め、弦を外します。古い弦は真ん中あたりで切ると作業が早いです。

05



新しく張る弦のボールエンドをニッパーで切ります。1~3弦のプレーン弦と、4~6弦のラウンド弦では切る場所が異なりますのでご注意ください。ラウンド弦は巻き弦が緩まないように根元を少し残して切ります。

06



切った弦の端をインサートブロックで固定します。ゆる過ぎると演奏中に弦が外れる危険があり、強く締め過ぎるとインサートブロックやスクリューが破損します。目安は、スクリューに抵抗を感じてから、さらに1/4~1/2回転きゅっと締める感じです。そして、「ファインチューナー」を回して「締めることも、緩めることもできる真ん中あたり」に調整します。

07



弦をブリッジに固定したら、弦がねじれないようにまっすぐ  
にします。ストリングリテーナーがある場合は、その下をく  
ぐらせます。大体ベグの1.5~2個分あたり先で軽く折り曲  
げて印を付けて下さい。

08



折り曲げたところまで弦を戻して、内側から外側へ、軽く引つ  
張りながら弦同士が重ならないように、下へ下へと巻きます。

09



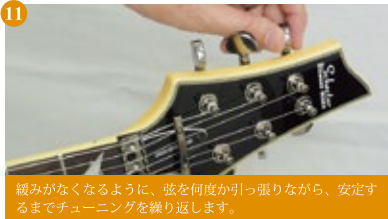
ある程度巻き終わったら、弦の余った部分を切ります。

10



全部の弦を張り終わったら、チューニングをします。全弦ざつ  
とチューニングしたら、ブリッジの下に拭いた布を外して下さい。

11



緩みがなくなるように、弦を何度か引っ張りながら、安定す  
るまでチューニングを繰り返します。

12



全部の弦のチューニングが合えば、ブリッジユニットはボ  
ディ上面と平行になっているのが基本のセッティングです。  
基本セッティングに調整されたギターを同じ種類の弦に張り  
替えた場合、チューニングを終えるとほぼ平行になります。

13



もしブリッジユニットが前後に傾いている場合は、再びブ  
リッジの後ろに布等を挟んで全部の弦を緩めた後、裏フタを  
開けてトレモロスプリングを調整します。スプリングハン  
ガーのネジをドライバーで調整し、もう一度全部の弦の  
チューニングを合わせて下さい。

14



チューニングが合って、ブリッジもボディ上面と平行になっ  
たら、ロックナットを取り付けて締めてください。この場合  
も締めすぎないように注意して下さい。強く締め過ぎると弦  
が潰れて音が伸びなくなったり、弦が切れたりします。目安  
はスクリューに抵抗を感じてから、若干力を入れて締める感  
じです。弦の太さによって丁度良い締め具合は異なりますの  
で、何度かチャレンジしてみて力加減をマスターして下さい。

15



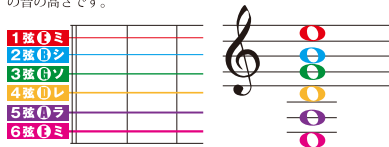
アームを何度か動かして弦を馴染ませ、ブリッジのファイン  
チューナーで最後のチューニングをします。もし、ファイン  
チューナーの範囲内で調節できなければ、一旦ファイン  
チューナーを真ん中に戻してからロックナットを外してベグ  
でチューニングし直して下さい。

## チューニングって何？

チューニングとは、ギターの場合は6本、ベースの場合は4本の弦をそれぞれ決まった音程に調整することを言います（通常よりも1〜2本多い楽器もあります）。まずこれが正確に出来ていないと、気持ち悪い音程になって楽器演奏として成り立ちません。また一度チューニングをしたと言っても、演奏中や保管中にも微妙にチューニングが狂っていきますので、楽器を弾く前には必ずチューニングする習慣を身につけましょう。

## レギュラーチューニング

最も一般的な「レギュラーチューニング」について説明します。それぞれの弦をどの音に合わせるのか、下記の図をご覧ください。それぞれの音程は、弦をどこも押さえないで弾いた「開放弦」の音の高さです。



## チューナーを使うチューニング

初心者には「チューナー」を使う方法が一番オススメです。楽器に接続して音程を視覚的に確かめることが出来ますので、慣れていなくても正確にチューニングを合わせられます。



楽器のジャックからシールドで繋ぐ一般的なタイプのチューナー。 楽器のヘッドなどに挿入して使うタイプのチューナー。

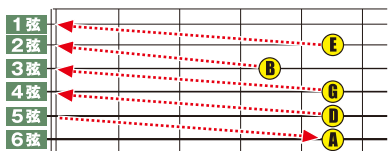
- 1 楽器のジャックとチューナーのインプットをシールドで繋いで、チューナーのスイッチを入れます。
- 2 各弦の開放をそれぞれ弾いて、太い6弦がEの音（ミ）を示すようにペグを回します。音が高いときには弦を緩め、音が低いときには弦を張ります（チューニングは音程を上げながら合わせましょう。下げながら合わせると狂いやすくなります。高すぎた場合は一旦チューニングを大きく下げた後から、上げながら合わせて下さい）。
- 3 太い弦から順に、ギターはE（ミ）/A（ラ）/D（レ）/G（ソ）/B（シ）/E（ミ）ベースはE（ミ）/A（ラ）/D（レ）/G（ソ）に合わせます。
- 4 一通りチューニングが終わったら、もう一度、6弦から1弦までチューナーでチェックしてみましょう。弦が張ることでネックに力がかかり、少し音程が狂っていることがあります。全部の弦が安定するまで何回か繰り返しましょう。

## 音叉を使うチューニング

音叉は二股に分かれた金属の棒で、柄を持って硬いところに当てると「ポーン」と綺麗な音がします。ギターやベースのチューニングでは440Hz（ラ）の音の音叉を使います。またピアノやキーボードなどに、「ラ」の音を出してもらっても良いでしょう。



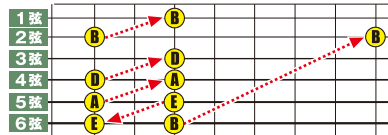
音叉の「ポーン」という音に、5弦の開放弦の音を合わせます。



まず、5弦の開放弦の音をラ（A）に合わせてから、5F隣の弦を順番に合わせて下さい。

## ハーモニクスで合わせるチューニング

ハーモニクスとは、指の腹を弦に軽く触れ、弦を弾いた直後に指を離して出す「ポーン」という高い音です。音の微妙なズレも分かりやすく、実音のチューニングより正確に合わせることが出来ます。



まず、5弦の開放弦の音をラ（A）に合わせてから、隣の弦を順番に合わせて下さい。



## シールドについて



エレキギターやエレキベースを他の機材に繋ぐために必要なケーブルは、一般的には「シールド」と呼びます。ギターとチューナー、そしてアンプ、エフェクターなど、あらゆる機材間で使用します。電気屋さんなどにもAV用のケーブルがありますが、エレキギターは微弱な電気信号を扱い、しかも挿したまま動き回るといった特有の条件がありますので、金属製の頑丈なプラグ（シールドの両端についている、ギターやアンプに差し込む部分）を備え、ノイズから「シールド」された太いケーブルを使ったエレキギター用のシールドを使用しましょう。なお、エレキギター本体によく付属している細いビニールのケーブルは、音質及び信頼性に欠けますので、あくまで「チューニング用」とお考え下さい。

プラグ部分はストレートなタイプと直角のL型タイプがあります。レスポールなど側面にジャックがあるギターはL型タイプの方が使い勝手が良いですが、同じように側面にジャックがあってもテレキャスターは少し引っ込んだ部分に差込口が来ることが多いので実際にL型タイプが使用できるかどうか注意が必要です。長さの目安は、自宅では長いと絡まりやすいので2m前後、ステージではアンプが後方にあることを考えると5mや7mが使い勝手が良いでしょう。エフェクターを接続する場合は短いパッチケーブルなどが必要になります。



## アンプについて

## 真空管アンプ



「チューブアンプ」とも呼ばれ、独特の迫力を持つ暖かみのあるサウンド特性で、絶大な支持を得ています。エレキギターが発明され世に広まった1940～50年代には真空管アンプしかありませんでしたが、技術が進歩した今日でも多くのステージ使用されています。これは真空管アンプが今でもエレキギターに最適と考えられていることの証明でもあります。しかし、電球のような構造を持つ「真空管」を使っているため取り扱いがデリケートで、メンテナンスにも手間がかかり、そしてそのアンプの出力に見合った音量で鳴らさないと良いサウンドが得られないなど、使用には多くの注意が必要です。代表的な注意点は、「パワーSWを入れて数分ほどしてからスタンバイSWを入れ、切るときには逆の手順にする」など。練習スタジオにあるアンプを使用する際に使用法などが分からないときには、スタジオのスタッフに問い合わせてみましょう。最近では、5W出力など自宅用小型真空管アンプも各種販売されており好評を得ています。

## 真空管アンプの電源のON/OFFについて

### 電源を入れる時

各コントロールが0(ゼロ)になっているのを確認し、パワースイッチを入れた後、数分ほどしてからスタンバイスイッチを入れる。

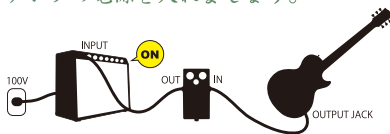
### 電源を切る時

各コントロールを0(ゼロ)にした後で、スタンバイスイッチを切り、数分ほどしてからパワースイッチを切る。

※電源を入れたりギターを接続する時や、エフェクターの抜き差しをする際に、「プチ」といった音や「ガリガリ」などというノイズは、スピーカーやアンプの回路を痛めます。接続をする時は、各ツマミ類が0(ゼロ)になっている事を必ず確認して下さい。もし、抜き差しするとき以外にもそういったノイズが出る場合は楽器店に相談して下さい。

## 音を出そう

全て正しく繋いでからアンプの電源を入れましょう。



- 01 アンプ側の電源がオフ、各コントロールが0になっていることを確認します。
- 02 ギターのジャックヘシールドのプラグをしっかりと差し込みます。
- 03 シールドのもう一方のプラグを、後述するエフェクターや、アンプ等のインプットジャックへ差し込みます。  
※各機器のインプット、アウトプットを必ず確認してからシールドを差し込んで下さい。音が出なかったり、故障の原因となります。
- 04 全ての接続が完了したらアンプの電源を入れ、ギター本体のボリュームが上がっていること確認し、少しずつアンプのツマミを上げて好みの音量、音質に調整します。なお、真空管アンプの場合は、電源スイッチを入れた後、数分後にスタンバイスイッチをONにして下さい。
- 05 あとは思い切り弾くだけです！
- 06 電源を切るときや、ギターからシールドを抜く際は、必ずアンプのコントロールを全て0(ゼロ)にして下さい。

## トランジスタアンプ



「ソリッドステートアンプ」とも呼ばれ、小音量でも鳴らしやすく、メンテナンスに手間がかからないなどのメリットがあります。その特徴から、1970年代以降は小型練習アンプといえどトランジスタアンプでした。またスタジオやライブハウスの定番アンプとして、ローランドのJC(ジャズコーラス)があります。「JCを使いこなせば一人前」と言われるほど、どこでも同じコンディションで音作りできるタブさと安定性はトランジスタアンプならではのものです。近年は、「アンプシミュレーター機能」を搭載した小型トランジスタアンプも発売されており、真空管アンプを彷彿とさせる本格的なサウンドを気軽に楽しめるようになりました。このタイプは、エフェクターも内蔵するなど多機能なアンプも販売されています。また、トランジスタアンプ特有のレンジの広さや反応の鋭さ、設計によっては超大音量にも対応できるなどの特徴を活かして、一部メーカーからはメタル専用の激震み大出力ステージアンプも発売されています。

## コントロール

エレキギターやベースは、ピックアップで拾った弦の信号を各種ノブでコントロールします。モデルによって異なりますが、ボリュームやトーンをはじめとするノブ類、ピックアップ・セレクターなどのスイッチ類が付いています。また、楽器によっては、トレブル、ベース、パラリサー、コイルタップなどが付いているモデルもあります。

### ボリューム

音量をコントロールします。時計回りに回すと音が大きくなり、反時計回りに回すと音が小さくなります。

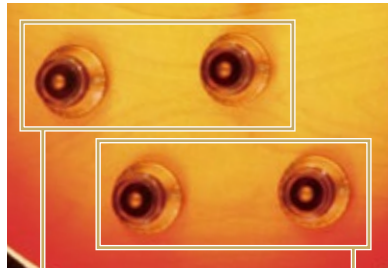
### トーン

音質をコントロールします。時計回りに回し切った状態が一番明るい音になり、反時計回りに回していくとソフトな音になっていきます。

### ピックアップ・セレクター

音を拾うピックアップをセレクトします。複数のピックアップの音を同時に拾えるポジションもあります。

## レスポール・タイプのコントロール・ノブ



(L→R) フロント P.U. トーンノス  
フロント P.U. ヴォリュームノス  
(L→R) リア P.U. トーンノス  
リア P.U. ヴォリュームノス

## ストラトキャスター・タイプのコントロール・ノブ



P.U. セレクター (5way スイッチ)  
(L→R) マスター・ヴォリュームノス  
フロント、フロント+センター、  
センター、センター+リア、リア  
フロント P.U. トーンノス  
センター P.U. トーンノス

## ピックアップ

ピックアップは、エレキギター&ベースのボディに取り付けられた部品で、マイクの働きをします。エレキ楽器は弦の振動をこのピックアップで拾って電気信号に変え、それをギター本体のジャックに接続したシールドケーブルを通してギターアンプに伝えて電気信号を増幅し、スピーカーから音を出すという仕組みになっています。

### シングルコイル・ピックアップ

一列のポールピースを持つ細長い形状。明るくクリアなサウンドが特徴のピックアップ。ハムバックング構造に比べるとその構造上出力が弱く、ノイズを拾いやすい特性があります(一部ハムキャンセル構造のモデルもあります)。一般的にキラキラ感があり、各弦の音の分離が良いのでコードの響きを聞かせるのにも向いています。



### ハムバックング・ピックアップ

二列のポールピースを持つ四角い形状が見た目の特徴で、太くてコシのあるサウンドが持ち味です。シングルコイル・ピックアップに比べて出力が大きく、ノイズをキャンセルする効果があり、歪ませるのに向いています。主にレスポール・タイプなどで使用されます。カバーが付いているものと、付いていないものがあります。



### その他のピックアップ

ジャズマスターのピックアップやギブソン P-90 のように、大型だけれどもシングルコイル・ピックアップ構造のもの、シングルコイル・ピックアップサイズで構造はハムバックング・ピックアップというものもあり、それぞれに特徴的なサウンドキャラクターを持ちます。またEMGなど、電池を使用し低ノイズやハイパワーなどを実現したアクティブ・ピックアップというものもあります。



## ビブラート・ユニット

ギターのタイプによっては、トレモロアームが搭載されたモデルもあります。手で金属の棒を動かすことで弦の張力を変え、それにより音程を変化させます。いわゆる、エレキギターといえばイメージされる「ギュー〜ン」というアレです。ボディ側のほうに倒してやるのがアームダウン、ボディ側からアームを引き離すように持ち上げるのがアームアップです。

### シンクロナイズド・トレモロ



主にストラトキャスターに取り付けられています。音程の変化が大きく、きちんと調整すればチューニングの狂いも少ない。ウィルキンソンやフロイドローズなども、このシンクロナイズド・トレモロの発展形と言えます。一般的なシンクロナイズド・トレモロでは穴にトレモロアームを入れ、くるくる回すとアームが入って行きます。好みの硬さになったところで止めてください。きつく回しすぎるとアームが折れてしまうこともあるのでご注意ください。また、ウィルキンソンなど一部モデルではアームを差し込むだけのものもあります。その場合、差し込み穴の横にアームの回る硬さを調整する小さいネジが付いている場合があります。

### ダブルロック式トレモロ



フロイドローズなど、弦をナット部分とブリッジ部分で固定してチューニングの狂いを解消しているユニット。激しく音程を上下させてもほとんど狂いはありません。効果音のようなトリッキーなサウンドも生み出すことができ、主にメタル系やテクニカル系ギタリストに愛用されます。またチューニングの狂いの少ないロック式という括りでは、ケーラー・ビブラート・ユニットもこれに含まれます。こちらはシンクロナイズド系のフロイドローズとは異なり、滑らかなアクションとしっかりしたボディ鳴りが魅力ですが、今日の市場では少数派です。

## フローティング・トレモロ



フェンダー社のジャズマスターやジャガーに取り付けられたユニット。差し込み式の長いアームの操作でテイルピースが動き、それに合わせてブリッジも前後することでチューニングの狂いを抑えています。ブリッジからテイルピースまでの距離が長く、激しく弾くと弦落ちしやすいので演奏には慣れが必要です。また、ムスタングには同様の設計思想を持つ「ダイナミック・トレモロ」が搭載されています。

## ビッグスビー



ビブラートユニットの元祖的存在。ギター本体に大きく改造を施さなくとも後付けでき、グレッッチやギブソンレスポール、ES-335、フェンダーテレキャスター、エプソンカジノなど、幅広いモデルに搭載されています。そのクラシカルでロックな雰囲気をもたえたルックスや、取り付けただけで「高城がギラッとしたビッグスビー特有の音色になる」とも言われ、実際にはアームをあまり使用しないギタリストにまでも熱烈なファンが多いというビブラートユニットです。なお、弦の張替えはポールエンドを小さなピンに通して行うため、スムーズにこなすには慣れが必要です。



## 歪み系・ダイナミック系

「歪（ひず）み」は、エレキギターの基本サウンドと言っても過言ではないでしょう。また、歪み系にコンプレッサーを加えて、ダイナミック系エフェクターと呼ぶ場合もあります。



### オーバードライブ

真空管アンプの歪みを模したマイルドなドライブサウンドで、ロックを始め幅広く使われる歪み。ピッキングのニュアンスやギターのコード感も伝わりやすく、真空管アンプのブースターとしても使用されます。

### ディストーション

ハードで刺々しいメタリックな歪みサウンド。一般的にはオーバードライブより歪みが深い。メタルやハードロック、またサステーンが伸びるでギターソロなどで使われています。

### ファズ

割れて潰れたような荒々しいサウンドが特徴。メーカーやモデルによって様々なキャラクターを持ち、歪みに彩りを添える音色として最近ではグランジ / オルタナ系やパンク系でも多く使われています。

### コンプレッサー

小さな音は持ち上げ、大きな音は抑えることで音のツブを揃えます。カッティングの隠し味的に使ったり、深くかけてサステーンを伸ばしてソロに使ったりします。

## モジュレーション系

音の位相や振幅を加工し原音と組み合わせることで、うねりや揺らぎを生み出します。



### コーラス

二本のギターを同時に弾いているかのような音の広がり感や、かすかなうねりで爽やかな音像を作り出します。

### フランジャー

ジェット機のような「ギューーン」というクセのあるメタリックなうねりを生み出します。軽くかけるとコーラスのようにも使えます。

### フェイザー

スピーカーを回転させたようなうねりを作り出します。カッティングギターに掛けると、とてもファンキーな感じになります。

### トレモロ

周期的に音量を上げ下げて揺らぎを生み出します。古いフェンダー社などのアンプにも搭載されていました。

## 空間系

残響音や反響音を加えて、空間的な広がりを生み出します。



### ディレイ

原音に遅れた音を足すことで、山びこや広いホールで音を出しているかのような残響感を出したり、曲のテンポに合わせて繰り返して、リズム効果を出します。

## リバーブ

トンネルや教会、ライブハウスのような残響を加えることで、音の広がりが臨場感をアップします。ただし掛けすぎると音が回りすぎて何を演奏しているか分からなくなるので要注意です。

## 音質変化系



### ワウ

足踏み型のペダルワウと、オートワウ（エンベロープ・フィルターとも言う）があります。ペダル・ワウはペダルの踏み込み角度によって、オート・ワウはピッキングの強弱や時間変化によって「ワウワウ」と喋っているような効果を出します。

### イコライザー

特定の周波数帯域をそれぞれ個別にコントロールするエフェクター。ミッドレンジを上げてギターソロが引き立つ音色を作ったり、逆にミッドレンジを下げていわゆる「ドンシャリ」なメタルサウンドを作ったり、幅広いサウンド・キャラクターを作ることが出来ます。

### アンプシミュレーター

一般的なエフェクターとはやや興趣が異なりますが、ギターアンプやスピーカーキャビネットの動作特性や周波数特性をモデリング化し、アンプから音を出しているかのように音質を変えます。歪み効果や残響音と組み合わせると臨場感を出す場合が多いです。

## 音質変化系

### オクターバー

原音にオクターブ下の音を加えるエフェクター。1970年代からあり、分厚いシンセ風の単音フレーズやギターソロに使われました。



### ピッチシフター

原音に任意の音程を加えます。CメジャーやAマイナーなど音階を指定できるものは、その調に合わせてギターフレーズをハモらせることができます。

### ワウミー

ペダルで音程を変化させるエフェクター。2オクターブ上や1オクターブ下などに設定でき、トレモロアームとは違ったメカニカルな効果を生み出します。

## マルチエフェクター



前述した複数のエフェクター機能を一台に収めたエフェクターがマルチエフェクターです。機種によってエフェクト搭載数は異なります。大部分の機種では2個以上のフットスイッチが搭載され、複数のエフェクターを同時に切り替えることができるので、スイッチ一つで次々と切り替えることができます。持ち運びや接続の手間、多数のコンパクトエフェクターを買うよりも安上がりな場合が多いなどメリットも多いですが、単体のコンパクトエフェクターには音色や操作性などそれにしか出せない魅力というものもあります。



## ご注意！

楽器の調整には知識と経験が必要ですので、十分に下調べをし、楽器の扱いに慣れてから行いましょう。分からないことは、実際に手を加える前に必ず購入したお店に問い合わせたみましょう。お店の連絡先は、楽器のお買い上げの控えをご覧ください。

## ネックの調整

ネックは基本的に木材でできており、そこへ金属製の弦の強い張力が掛かっているため、気候の変化などの諸条件で反ってしまうことがあります。ネックが反ってしまうと弦高が高すぎて弾きにくくなったり、逆に弦高が低くなって弦がびびったり、音の出ないポジションが出たりします。そういった場合に備え、ほとんどのエレキギターのネックには調整可能なトラスロッドが入っています。

リペア&カスタマイズ工房 WSR 監修の下記手順を参考に、十分注意して作業を行って下さい。

01



弦を張ります。その時、弦が折れたり、ネジれたりしないように注意してください。オクターブが合わなかったり、一方だけビビるという場合、これが原因だったりもします。フェンダー系ならポスト 2.5 個分、ギブソン系ならポスト 1 個半分先から巻き始めると 2~3 巻きでチューニングが合います。

02



チューニングを合わせてネックの状態を見ます。まず、6 弦 1 フレットと最終フレットを押さえて 7 フレットあたりのフレットと弦の間隔をチェックします。べったりとくっついていれば「逆ぞり」で、隙間があきすぎている場合は「順ぞり」です。ネックが真っ直ぐな状態では、0.1mm ぐらいの隙間があるか、ないかくらいで、7 フレットあたりを軽く叩くと「ベシベシ」と音がします。

03



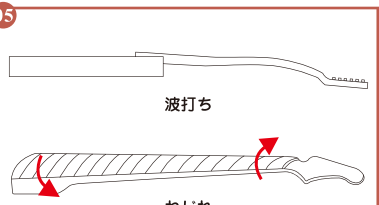
1 弦側もチェックします。6 弦側と間隔が違いすぎる場合は、ネックの「ねじれ」が、12~17 フレットあたりに隙間が見られる場合は、いわゆる「ハイハネ」が予想されますので、こんな場合は一度、リペアショップへ。

04



ネックの状態がチェックできたらトラスロッドを回します。調整の際はしっかりとレンチを差し込み、トラスロッドのナットをつぶさないよう気を付けてください。ギター正面に対して、時計回りで逆ぞり（締まる）方向、反時計回りで順ぞり（緩む）方向です。どのくらい回すかは、まさにカンと経験の世界ですが、1/4 回転ずつ様子をみながら回し、(1)~(3)のチェックを繰り返しながら真っ直ぐな状態になるまで調整するのが良いでしょう。何回まわしたかをチェックしておけば、ロッドを折らない限り元に戻らなくなる事はないと思いますので、ぜひチャレンジしてみてください。

05

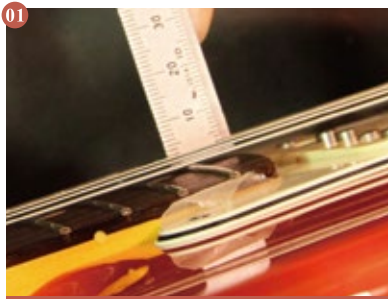


トラスロッドで調整可能な「正常」な反り以外に、ネックのトラブルには「波打ち」「ねじれ」「元起き」などがあります。このような場合はトラスロッド調整では直りませんので、お買い上げ楽器店に問い合わせ、修理を依頼しましょう。

## 弦高&amp;オクターブ調整

「ネック調整」の手順を踏んで、ネックをまっすぐにしたら、続いて弦高&オクターブ調整に挑戦しましょう。

こちらも、リペア&カスタマイズ工房WSR監修の下記手順を参考に、十分注意して作業を行って下さい。



弦高を判断をするに当たって一般のユーザーさんが行う場合、弦を押さえた感覚や目で見て決めていると思いますが、これは非常に難しいものです。それは、各弦のバランスをとるのが大変なことが大きな要因で、WSRにビビリやツマリを持ち込まれるギターの約30%は「弦高の下げすぎ」によるものです。なので、スケール（ものさし）を使うことをオススメします。数字で計ることによって各弦のバランスもとりやすくなり、適度な弦高も得やすくなります。まず、最終フレットにスケールを垂直に当てて弦の下の部分からフレットまでの間を計ります。それを1〜6弦まで順に行います。WSRでは1〜6弦まで順に高くしていき、低い設定では、1弦側が約1.5mm、6弦側が約2mm、高い設定で1弦側が約2〜2.5mm、6弦側が約3〜3.5mmぐらいに設定しています。全ての弦を同じ高さにするより、このように設定した方がバランスも良いようです。



上記の要領で弦高を調整しても、まだ弦高バランスが悪い場合は、ナット溝の不揃いが考えられます。また開放で鳴らしたときに音が出なかったり、ビビリのある場合はナット溝が深くなりすぎているケースが考えられます。ナット溝のチェックは簡単で、2フレットを押さえて1フレットと弦の間をみればわかります。これで隙間がなかったら要ナット交換、間が開きすぎているら必要調整となります。



続いてオクターブ調整に入ります。チューナーを繋ぎ、まず12フレットのハーモニクスでチューニングを合わせた後、12フレットを押さえた実音と、12フレット上のハーモニクスのチューニングが合うように調整します。もし実音が低ければブリッジのコマをネック側に、高ければボディエンド側にずらします。この作業の注意点は、面倒でも一度チューニングを緩めてから行うということです。そうしないと弦が傷ついたり、折れ曲がったりしてしまいます。さらに、コマを前後に動かした後は、弦高が変わってしまうので、最後に弦高調整を行い、もう一度オクターブチェックをしましょう。以上のやり方でもオクターブが合わない場合は、弦がブリッジ部かナット付近で折れ曲がっていることが考えられます。また、極端にブリッジの取り付け位置がずれていることがありますので、その場合はWSRにお持ち込み下さい。

## トレモロ・スプリングの調整



弦を交換した際に、ブリッジの後ろが持ち上がりすぎてしまった場合や、アームダウン&アップの動きが極端に固い場合は、ボディ背面のトレモロ・スプリングを調整します。ボディ背面中央にあるトレモロ・ブリッジの裏パネルを外し、バネが引っぱらけてあるスプリングハンガーを止めている2本のネジをドライバーで時計回りに回すと、スプリングの張りが強くなりブリッジ後部が下がり、逆に回すと弱くなってアームの動きが軽くなります。スプリングを調整するとチューニングも変わってきますので、バランスを取りながら繰り返し調整して下さい。また、スプリングの本数でもアームの手ごたえは調整でき、通常のシンクロナイズド・トレモロでは最大5本までスプリングが張れます。なおスプリングを増減する場合は弦を完全に緩めてから、裏返してスプリング・ハンガーを緩めて下さい。

## ピックアップの高さ調整

左右の取り付けネジを回してピックアップの高さを上下させ、弦との距離を調整し出力の調整を行いません。

※ピックアップを低くしすぎると、ピックガードやエスカッションからピックアップが外れてしまうことがあります。その場合はピックガードやエスカッションを取り外して付け直さなければなりませんのでご注意ください。



まずリア・ピックアップから調整します。最終フレットを押さえて、弦とリア・ピックアップの間が2~3mmになるように高さを調整してください。

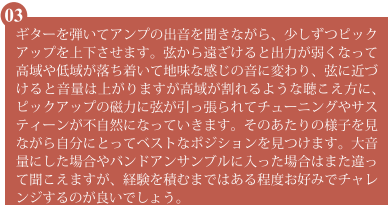


クリーントーン・セッティングしたアンプにギターを繋ぎます。

トレブル、ミドル、ベースといった「トーン」は、ツマミを真ん中に、リバーブやコーラスといった「エフェクト」はツマミをOFFにしておきます。その後、ギター側のボリュームを上げ、次にアンプ側のボリュームを徐々に上げましょう。

### ご注意！

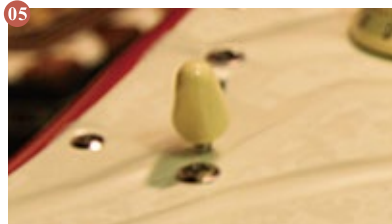
電源を入れる前に、全てのボリュームやトーンを「0」にしておくこと！ボリュームやトーンのツマミを上げたままアンプの電源スイッチを入れたり切ったりしてしまうと、故障の原因になります。



ギターを弾いてアンプの音を出しながら、少しずつピックアップを上下させます。弦から遠ざけると出力が弱くなって高域や低域が落ち着いて地味な感じの音に変わり、弦に近づけると音量は上がりますが高域が割れるような聴こえ方に、ピックアップの磁力に弦が引っ張られてチューニングやサスティーンが不自然になっていきます。そのあたりの様子を見ながら自分にとって最適なポジションを見つけます。大音量にした場合やバンドアンサンブルに入った場合はまた違って聞こえますが、経験を積むまではある程度お好みでチャレンジするのが良いでしょう。



リア・ピックアップの高さが決まったら、次は左右の取り付けネジを回して角度を変え、低音弦と高音弦のバランスを取ります。6弦は太く、1弦は細いので聞こえてくる音量が異なる為です。クリーントーンのアンプで色々なピックアップを試しながら、ピックアップの角度を決めてください。調整するとピックアップ上面は弦やボディに対して水平ではなく、高音弦側がやや高くなるセッティングになるのが一般的ですが、これもある程度好みに応じて調整していただいても構いません。また、ピックアップによってはポールピースがネジ型になっていて各弦の微調整ができるタイプもあります。



リア・ピックアップのセッティングが決まったら、フロント・ピックアップのセッティングを行います。ピックアップ・セレクターで切り替えながら、フロント・ピックアップの高さを上げ下げし、リア・ピックアップと音量バランスを取ります。聴いた感覚で音量が同じくらいになるようにフロント・ピックアップの高さを調節します。フロントの位置の方がリアより弦振動が大きい為、同じ出力のピックアップの場合フロントピックアップの方が低くなるはずですが、しかし、あらかじめフロントとリアで出力差を付けたセットが取り付けられている場合もありますので、その場合は高さは若干少なくなります。そしてリア・ピックアップに(5)同様、左右の取り付けネジを調整して低音弦と高音弦の音量バランスを取って下さい。



センターピックアップのあるモデルも同様にして前後のピックアップとの音量バランスを取ります。さらに二つのピックアップ間のミックスサウンドも試してみて、バランス的に「おいしい音」になるよう考慮に入れられれば問題なしです！

## Q. 音が出ない！

- 01** ギターやアンプのつまみが「0」になっていませんか？  
→ 12～13 ページ 参照。
- 02** ギターと各機器は正しく接続されていますか？  
→ 12～13 ページ 参照。
- 03** シールドが断線していませんか？  
→ ギター側のプラグを外し、プラグの先端に触れて音が出なければ、アンプやエフェクター、シールドなどギター以外の不良が考えられます。
- 04** 電池が古くありませんか？  
→ アクティブ回路など電池を必要とするギターは、電池が無くなると音が出なくなりますので、交換しましょう。

※上記のチェックポイントで原因が見つからない場合は、ギター内部かアンプ、エフェクターなどの不具合が考えられますので楽器店にご相談下さい。

## Q. 音が出たり出なかったりする！

- シールドが断線しかけていませんか？**  
→ シールドのプラグ付近を揺すってみてブチブチと音が出たり出なかったりするればシールドの不良ですので、交換して下さい。
- ※シールドを変えても原因が見つからない場合は、ギター内部かアンプ、エフェクターなどの不具合が考えられます。

## Q. いつもより音が小さい！

- 01** ギター、アンプのつまみが下がっていませんか？  
→ 12～14 ページ 参照。
- 02** コイルタップやフェイズなどのスイッチがオンになっていませんか？  
→ 14 ページ 参照。そのギターに特有のスイッチ類は普段から慣れておくことが必要です。
- 03** シールドが断線していませんか？  
→ 断線しかけると音が小さくなる場合がありますので、シールドを交換してして下さい。
- 04** 電池が古くありませんか？  
→ アクティブ回路など電池を必要とするギターは、電池が無くなると音が出なくなりますので、交換しましょう。

- 05** ビックアップの高さは適切ですか？  
→ 14、19 ページ 参照。調整ネジを触った記憶が無くても、何らかの衝撃でビックアップが下がってしまっていることもあります。

※上記のチェックポイントで原因が見つからない場合は、ギター内部かアンプ、エフェクターなどの不具合が考えられます。

## Q. いつもよりノイズが大きい！

- 01** 弦に触るとノイズは治まりますか？  
→ ほとんどのエレキギターには、「弦アース」といって弦に触るとノイズが減る配線が施されています。ノイズが出ていても、弦に触れて止まるのであれば正常です。
- 02** シールドが断線しかけていませんか？  
→ シールドを交換して様子を見て下さい。変化が無ければ他の原因が考えられます。
- 03** ノイズ源になっている物が近くにありませんか？  
→ 蛍光灯やパソコン、携帯電話や電気カーペットなど、電気ノイズの元になるものは沢山あります。スイッチを消すなどして確かめてみましょう。
- 04** アンプやエフェクターの設定は適切ですか？  
→ 番みのゲインが上がりすぎていたり、いつもはオンになっていたノイズゲートが切れているとノイズが増えます。また、音量を上げるとノイズも普段より大きく聴こえます。

※上記のチェックポイントで原因が見つからない場合は、ギター内部かアンプ、エフェクターなどの不具合が考えられます。

## Q. ボリュームやトーンが効かない！

- ダイレクトスイッチがオンになっていませんか？**  
→ コントロール類をバイパスする「ダイレクトスイッチ」が付いたモデルがあります。

※上記以外の場合、ギター内部の不具合が考えられます。

## Q. チューニングが狂いやすい！

- 01** 弦は正しく張られていますか？  
→ 8～10 ページ 参照。
- 02** オクターブピッチは合っていますか？  
→ 18 ページ 参照。
- 03** ビブラートユニットは正しく調整されていますか？  
→ 15 ページ 参照。

※上記以外の場合、ナットなど専門的な調整が必要な場合が考えられます。

## Q. 音がビビル、つまる！

- 01** ネックは正常な状態ですか？  
→ 17 ページ 参照。
- 02** 弦高は適切ですか？  
→ 18 ページ 参照。



プロフェッショナルに聞く。

額田 誠

【リペア&カスタマイズ工房 WSR 代表】

楽器の取り扱いに精通したプロフェッショナルとして、いざというときに頼りになるリペアマン。ここでは日々多くの楽器に向き合っている、渋谷に店舗を構えるリペア&カスタマイズ工房「WSR」の代表、額田誠のインタビューをお送り致します。



調律できる = 調律しなくちゃいけない。

——まずは、楽器を弾いていく上で、「プレイヤー自身がやってみた方がいいこと」をお聞きしたいのですが。

まずは、いじれる部分に関しては、いじっていいと思います。調整をせずに持ち込まれる方が多いのですが、理由を聞くと「いじるのが悪い」という方がほとんどで。ただ、このギターマニュアルなどを見て、ある程度は分かると思うのです。また、いじって完全に壊れることは、あまり無いと思います。

——自分で調整を行うことの利点はなんでしょうか？

本来は、自分の楽器の状態を良く知っておくという意味で、ギターはどんなにやるべきだと思います。「どうしたら良くないのか」ということも知ることが大事ですし、いじることによって、より楽器に対する知識が分かってきます。そうすると、その次に何が必要かが分かってきます。例えば、ネックが反ったまま弾き続けていると、ちゃんと調整をして弾き続けることは出来るようになってきます。ちゃんとオクターブを合わせてちゃんと音を出すと、「鳴り」や「コードの響き」が変わってきますので、そういう意味でも楽器を弾く際の「耳」が変わってくると思います。「良いプレイヤー」は、ある程度は自分で上手く調整出来る方が多いですね。

——どうやったら良くなるか、悪くなるか、知っておくと選択肢が増えますよね。

はい。なので続けていくことで、「ここが悪い」という点が分かるようになります。そうすると「これは半田ゴテがあれば自分で出来る」といった具合に対処出来るようになりますし、そういう部分はプレイすることと同じくらい大事なことだと思います。

——では、次に「改造」というテーマでお聞きします。様々な依頼があると思いますが、まず最初に改造をしようとして依頼してくる案件はどういったものが多いですか？

多いのはやはりピックアップです。シングル・ピックアップをハムバッカー・ピックアップに変えたりなどですね。

——分りやすく音に影響が出る場所からですね。

そうですね。あとは、ペグをロックペグに変えたりする方も多いです。そこから先は、練習して上手くなって、興味本位で改造するというよりも、プレイするにあたって必要となってきたら改造を行う場合が多くなりますね。例えば、フレットを少し大きいフレットに打ち変えて弾きやすくしたり。

——必要に応じての改造、ということになる訳ですね。

改造は、自分のスタイルが見えてきて初めて「こうするべきだ」という形になりますので。そこまではとにかく練習です。そして調整も練習です。ピアノなどと違ってギターは自分で「調律出来る」。それは、イコール「調律しなくちゃいけない」なんです。練習を重ねる内に、プレイだけのことを考えていけばいいという訳にはいかなくなります。ギターはたくさん部品の部品が組み込まれて作られたものなので、練習をすればするほど不具合は出てきます。それを通常の状態に持っていく技術は絶対に必要です。プレイの上達とセットでそういった技術も身につけてほしいですね。

リペア&クラフトマン / 額田 誠 (ぬかだまこと)

ギタークラフト・スクールを卒業後、池部楽器店へ入社。「WSR」を立ち上げた後は、責任者、そしてクラフトマンとして膨大なオーダーに携わりつつ、新たな提案を生み出し、楽器の可能性の追求にもチカラを入れ続けている。現在、Web サイトにてコラム「WSRより”もっと”愛を込めて」を掲載中。趣味は愛人と戯れることとサーフィン。



株式会社池部楽器店 WSR (ダブルユー・エス・アール)

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-7-4 スクエア B 3F

TEL. 03-6433-7957 / wsr@ikebe.co.jp

<https://www.ikebe-gakki.com/wsr/>

渋谷旗艦店「イケケブ (IKEBE SHIBUYA)」の3階に拠を構える、リペア&カスタマイズ工房「WSR」。額田を中心とした、丁寧かつ迅速なリペアはプロアマ問わず定評があり好評を得ている。チューンナップからフルコンボまで、様々なオーダーに対応可能。